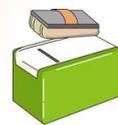


ぎふこくが

号外 平成二十三年七月十四日 発行

板書く 国語人の基礎・基本く

会長 河口洋二郎



「字は下手です。」「きれいな字を書こうと思うんですが、(字が)きたないので。」。:

文字を書くことが話題になるとき、こうした会話によく出会います。きまつて、そのきれいさ・美しさ・上手さが主になります。「正しさ(正しく書くこと)には自信があります。」といった方にお目にかかることはほとんどありません。子どもたちも大人も、そして、私たち国語教師も同様です。

はね・とめ・はらい、あるいは筆順…、国語教師として、「文字を正しく書くことの大切さ」を再認識したいものです。例えば板書。「えっ?」と目を疑う

場面に出くわします。板書は「作品」です。人前で実際に書く、つまり、「見ていただく場」でもあります。「国語力を試されている場」と言ってもよいでしょう。

キーはもちろん、タッチパネルによる入力主流になりつつある昨今。しかしながら、手で書く場面は未だその存在意義を失ってはいません。「筆順指導の時間などなかなかとれませんよ。」との声が聞こえてきます。だからこそ、「『歩くお手本』、わたしの書く文字を見ていてごらん。」と胸を張って板書を披露できる国語教師でありたいですね。文字のきれいさ・美しさ

・上手さは二の次。自信をもつべきは「正しさ・正しく書くこと」。国語人にとっての基礎・基本です。

平成二十三年度が歩み始めました。大成功を収めた昨年度の東濃大会を受け、来る二十六年可茂大会に向かう初年度です。研究大会の開催はありません。ゆえに、これまでの方針や内容等について、継続あるいは手直しすべきは何か、新たに取組むべきは何かを再考するなど、足元を固め直す時期であると考えます。

今年度、会長職を仰せつかりました。役員・部員の皆様、そして、代議員・会員の先生方、たいへんお世話になります。前任の二村会長の方針「学び合い、学ぶ県中国研」、私も同じ願いです。さらなる確かな営みが残せる一年になりますよう、よろしくお願いいたします。



小学校の教科書が示しているものを

主務 永井伸幸

先日、小学校から高校までの国語教師が集まる場に出席する機会を得ました。会の終わりに「実践交流」があり、指導で大切に行っていることや、日ごろの実践を通しての悩みを話し合いました。

その中で多くの先生方が「生徒の表現力が乏しい。」「語彙が少ない。」といったことを話され、今後、そうした実態に対してどのような指導を行っていくべきかといった話題になりました。自分が目の前にしている生徒にも当てはまることなので、共感して話を聞きながら、「小学校の教科書の巻末を見ると良い」と教えていただいたことを思い出しました。

小学校六年生(光村図書)の巻末には、「評価・判断や、感情を表す言葉」という頁があり、

次のような言葉が示されています。

評価・判断や、感情を表す言葉

◇評価・判断を表す言葉

「人物」

楽観的な 悲観的な

感情的な 論理的な

積極的な するどい

未熟な 気難しい

えんりよがちな

ひかえめな おだやかな

「事物」

適切な 好ましい

不都合な 不向きな

不つり合いの

―に類する

さも―のように

いかにも―のように

今にも―しそうな

◇感情を表す言葉

したう あこがれる

かんめいを受ける

なごむ 圧倒される

こちよい 痛快

意気ごむ 我を忘れる

晴れやか

顔から火が出る

気が気でない 味気ない

わずらわしい ためらう

もどかしい なやましい

ふさぐ

(一部抜粋)

こうした言葉は、五年生の教科書の巻末にも示され、そこには、「ほほえましい」「快い」「息をのむ」「いまましい」「まごつく」「うろたえる」などが記載されていました。

これらの言葉を目にして、今現在、自分が教えている生徒が、自分の口で「感銘を受ける」や「煩わしい」といった言葉を使えるかと、懐疑的な思いになりました。「いい感じ」「ビミョー」「うざい」といった言葉で、ひと括りに自分の感情を表している生徒の姿が頭に浮かぶからです。

また、この巻末をも含めた教科書で学習した六年生が、来年の春には中学生になるとい

とも踏まえなければいけないことだと改めて感じました。“感情を表す言葉”だけではありません。来年の一年生は、李白の「牀前月光を看る 疑うらくは是れ地上の霜かと 頭を挙げては山月を望み 頭を低れては故郷を思う(静夜思)」を六年生で、再来年の一年生は、「学びて思はざれば、則ち罔し。思ひて学ばざれば、則ち殆し。(論語)」を五年生で、それぞれ声に出して読むという学習を行い、中学校に入学してきます。

小学校の教科書がこのようになったから、今までやってきた中学校での指導を見直さなければいけないと言いたいわけではありません。小学校の教科書が示しているものの背景を考え、それらを踏まえて中学校でも指導していく必要があるのではな

いかと考えるのです。
中学校教師の日常も激務です。明日の授業の教材研究にたどり

つけないこともあります。しかし、少し時間に余裕が生まれる夏休み、小学校の教科書を手に取ってみることも、九月からの指導のヒントになるかもしれません。巻末に示されている言葉を生徒に伝え、「日常生活の中ですべての言葉を用いてみよう」と投げかけることもできるので

はと思いを巡らしています。
中国研としても、少しでも学び合う場を設けたいと八月十七日に夏季研修会を行います。

(講師に国立教育政策研究所 力調査官 杉本直美先生をお招きして、講演会等を行います。) 詳しくは、改めてお伝えします。ぜひ多くの先生方にお集まり頂きたいと考えています。

今後何かと県内の先生方にはお世話になるかと思いますが、どうかよろしく願います。



岐阜県中国研会員の皆様へ

研究総括 富田泰仁

平成二十三年度研究主題

明日に生きる言語能力の育成

「確かな言葉の力」と「豊かな言語感覚」を鍛え、磨きあう国語教室の創造

一 平成二十二年度の成果と課題

研究の側面から考えた時、「第一〇回岐阜県中学校国語科研究会東濃大会」を終え、平成二十二年における成果と課題には、次のような点が挙げられると思います。

○新学習指導要領に対応した「明日に生きる言語能力」の育成をめざして、単元や単位時間での指導事項を明確にした授業公開ができた。

○各領域における「教材分析図」

を作成し、授業に活用することができた。

○授業へのこだわりとして「確かな言葉の力」と「豊かな言語感覚」を前面に押し出して実践することができた。

○地域教材の開発が積極的に行われ、それを 授業に活用することができた。

●多くの先生方に実践を積み重ねていただけるのはありがたい。しかしその多くの実践を、どう県内の先生方に還元していくとよいのかという方法を考える必要がある。

●教材分析図を四年間かけて作成してきたが、継続することも含めて今後どのように活用し、広めていくのかを考える必要がある。

●岐阜県の国語教師の今の声や、岐阜県の国語における生徒の実態を、研究に反映させていく必要がある。

六月。市橋コミュニティセンターで行われた研究会で次のようなことを話題にしました。

岐阜県の国語の授業とは

①生徒が楽しくて、もって学びたくなる授業である。

②生徒が自ら「確かな言葉の力」と「豊かな言語感覚」を鍛え、磨きあっている授業である。

③その授業の連続が「明日に生きる言語能力の育成」につながる。

「確かな言葉の力」とは

- ・ 基礎的・基本的な知識や技能的に理解する力
- ・ 適切に表現する力
- ・ 論理的に思考する力

「豊かな言語感覚」とは

- ・ 五つの言語意識に基づいた表現（語、文、文章のすべてを含む）に対する、正誤・適否・美醜の感覚

「鍛え、磨きあう国語教室」とは
・ 教師の指導と意図性と計画性をもった営みであり、生徒一

人ひとりの見方や考え方を広げ深めたり、対話する力を高めたりすることのできる教室

東濃大会では、東濃地区の先生方を中心に、各領域の部会との連携を図りながら、授業づくりから何度も検討が行われ、想いが溢れる授業、実践発表となりました。今後に生かしていきたい参加者の方々の声（全68通）があります。一部ご紹介します。

・ 経験年数の少ない私のような教員にとっては、頂いた紀要は一つの指導書のようなものになって心強く思いました。地域教材の発掘には目を見張るものがありました。生徒が意欲的に学ぼうとする教材になるように研究することが大切であると改めて感じました。

これまで行ってきた研究主題に込めた考え方を、県内に広めていくのが平成二十三年度の位置付けです。研究主題の文言は

そのままに、来年一年間この考え方で実践を進めていけるようにしたいと考えています。その上で、研究内容として以下の四点に取り組んでいきたいと思えます。東濃大会の財産を、各部のテーマを通して広げていきたいと思えます。

【研究内容として取り組みたいこと】

- ・ **岐阜県の国語の在り方の形をつくっていくこと**（明日に生きる言語能力の効果的な活用）
- ・ **地域教材を積極的に開発**（既存の単元や教材の中に、組み合わせていくことも）し、実践を積み重ねていくこと
- ・ **岐阜県の国語教育の課題や、先生方の声を研究に反映させること**
- ・ **中国研として、岐阜県の国語科指導案のモデルを作る**こと

二 今後の研究を進めていく上での予定

中国研の願いを県内の先生方の研究により反映させるために、今後継続的に研究の組織として

も次のような動きができればと考えています。

- 6月…研究部、研究部員、代議員の交流により、今年度の研究の方向の確認を行う。（今どんなことが必要なかということを確認していく）
- 7月…各研究部で、実践交流や授業研究会を行っていく。
- 8月…中国研の夏期ゼミを開催する。
- 9月以降…研究部での授業交流など、実践交流を行う。
- 1月…ぎふこくご原稿の作成（各研究部部長、代表1名）
- 2月…中国研のまとめの会を行う。
- う。研究部、研究部員、代議員の交流で確かめたことを振り返り、来年度につなげる。

三 最後に

今年度も各都市では教科研究会が行われていくと思います。その中で部長を務めてくださっている先生方が、中国研の各都市の代議員として年二回の中国研全体会に参加してくださいませ。岐阜

県の各都市の教科研の研究主題は、前述の中国研研究主題を受けてきています。つまり、中国研

の研究主題を通して「岐阜県すべての国語教師がつながること」ができています。私たち一人ひとりが、各学校の国語部員が、各

郡市の教科研が「明日に生きる言語能力の育成」を具体化する実践を積み重ねること、岐阜県の国語が日々進歩していくのだと思います。研究部のテーマや内容を受けて各都市でテーマが設定され、授業研が行われます。その実践が研究部でもう一度フィードバックされて県内に広まっていくと、「組織で行う研究」になっていくと思います。研究部では次のような提案が具体的にできるとよいと考えています。

・「明日に生きる言語能力の具体化一覧表」を、各都市の教科研で授業者に活用してもらおう

・各都市の教科研で、地域教材の積極的な活用と、研究部で地域教材の開発を行う。

・中国研から提案している指導案の書き方を各都市でも広めてもらおう。

・各都市の教科研を通して、岐阜県の国語教師が抱えている問題点を吸い上げ、研究に生かしていく。

今年度も各都市で教科の研究が進められていきます。どの都市においても「明日に生きる言語能力の育成」という中国研の研究主題を受けて研究を進めてくださっています。

東濃大会を終えて、新たなスタートを切った岐阜県の国語のあり方を考えるわけですが、「楽しくてもっと学びたくなる授業づくり」は変わりません。私達が共有している「明日に生きる言語能力の育成」の具現のために、一人ひとりが実践を重ね、各都市でまとまった実践がまた一つの形になることを願っています。今年度もよろしく願います。



平成二十三年 度 県中国研 代議員名簿

15	関市	亀山 智美	武芸川中	30	大野郡	野首 章吾	白川中
14	揖斐郡	木村 英器	池田中	29	下呂市	片田 智子	竹原中
13	安八郡	佐藤 善保	登龍中	28	飛騨市	野村 典之	古川中
12	不破郡	高木 規子	今須中	27	高山市	加藤 陽介	国府中
11	養老郡	安部 治	東部中	26	中津川市	梶屋 明広	第一中
10	海津市	大橋 千登世	城南中	25	恵那市	伊藤 政之	山岡中
9	大垣市	松岡 靖彦	上石津中	24	瑞浪市	辻 美里	釜戸中
8	本巣郡	(本巣市の代議員が兼務する)		23	土岐市	加納 玲子	西陵中
7	羽島郡	川口 好恵	岐南中	22	多治見市	加藤 充康	南ヶ丘中
6	本巣市	曾我部 領史	本巣中	21	可児郡	森 加代子	共和中
5	瑞穂市	板東 俊輔	穂積北中	20	加茂郡	河村 陽介	上麻生中
4	山県市	小森 一孝	高富中	19	可児市	高木 榮司	中部中
3	各務原市	森 和夫	蘇原中	18	美濃加茂市	橋本 奈美	双葉中
2	羽島市	小島 京子	中央中	17	郡上市	福手 真	白鳥中
1	岐阜市	渡辺 孝充	長良中	16	美濃市	井上 宏文	美濃中
番	郡市名	氏名	在勤校名	番	郡市名	氏名	在勤校名

平成二十三年度 県中国研 本部役員・研究部員名簿

【本部役員】

会長	河口洋二郎	岐阜市立長森中学校
副会長（岐阜）	稲葉 律夫	岐阜市立精華中学校
副会長（西濃）	佐野 恵子	海津市立平田中学校
副会長（美濃）	片桐 一男	郡上市立高鷲中学校
副会長（可茂）	井上 光彦	御嵩町立上之郷中学校
副会長（東濃）	谷口 千鶴	多治見市立笠原中学校
副会長（飛騨）	室崎 匡彦	高山市立東山中学校
評議員	西田 拓郎	大垣市立西中学校
会計監査	香田 静夫	大野町立大野中学校
会計監査	庄司 龍彦	関市立武芸川中学校

【事務局】

主務者	永井 伸幸	郡上市立大和中学校
会計部長	今井 則雄	岐阜市立青山中学校
総務部長	加知 昌彦	多治見市立陶都中学校
部長	西尾 新	土岐市立泉中学校
部長	曾我部雄志	岐阜市立藍川北中学校
部長	松永健一郎	岐阜大学教育学部附属中学校
部長	遠山 健二	岐阜大学教育学部附属中学校
部長	島田 雅子	大垣市立江並中学校
部長	岸 浩道	岐阜市立境川中学校
部長	伊藤 雄樹	岐阜市立加納中学校
部長	西門 純	岐阜市立加納中学校
部長	水野 寛大	岐阜市立加納中学校

【研究部】

研究 総括	富田 泰仁	大垣市立星和中学校	
副総括	富山 哲成	岐阜市立長良中学校	
話す聞く部長	山口 政有	岐阜市立東長良中学校	
書く部長	井深 誠	岐阜大学教育学部附属中学校	
読む部長	長谷川圭奈	大垣市立興文中学校	
言語文化部長	内田 誠司	本巣市立真正中学校	
話す聞く部員	荒井貴行（日枝中）	渡辺孝充（長良中）	野々村真理子（岩野田中）
	加納玲子（西陵中）	松原敦也（坂本中）	梶屋明広（中津川・第一中）
	辻 美里（釜戸中）	首藤聡美（緑陽中）	太田慎哉（中津川・第二中）
	上村一貴（明宝中）	塚本陽治（陽南中）	岡庭優希（中津川・第二中）
書くこと部員	井上宏文（美濃中）	細江隆一（駄知中）	高橋友之（東長良中）
	今井則雄（青山中）	加藤明子（平和中）	高橋かおり（稲津中）
	加藤善浩（島中）	河田剛延（長森南中）	丹下侑輝（加子母中）
読むこと部員	平野栄子（島中）	丹羽宏樹（青山中）	酒向由美子（陽南中）
	山口明美（陽南中）	中島英人（古川中）	小島京子（羽島・中央中）
	上村光一（東長良中）	小島光太郎（恵那西中）	
言語文化部員	深尾 寛（藍川中）	吉永康昭（東長良中）	伊藤 瞳（南ヶ丘中）
	一川宗弘（青山中）	中島芽衣子（日吉中）	